

火曜会通信

発行日：平成17年5月1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

特別寄稿 将来の伊丹を担うみなさんと共に

伊丹市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課長兼社会教育課長

相原 信也

五月に入り、昆陽池の周りのツツジの花がとても美しい季節となりました。元気にお勉強や遊びをしていますか。

みなさんは、伊丹には清酒を造る建物（酒蔵）として現在に残っているものの中で日本で一番古い酒蔵があることを知っていますか。「旧岡田家住宅・酒蔵」と言います。

去年はその建物が造られて330年ということで、市内で色々なイベントが催されました。このイベントは遠くベルギーやオランダからもお客様が来られました。清酒発祥の地：伊丹を市内外のみなさんはじめ世界の人たちに知っていただく貴重な機会となりました。



私は、阪急伊丹駅の北にある猪名野神社のそばで生まれました。猪名野神社というところは、昔の伊丹郷町でも北の端にあたり、戦国時代、織田信長に滅ぼされた荒木村重という武将が造った町全体を堀と土塁で囲んだ「惣構え」の城である有岡城の「岸の砦（きしのとりで）」があったところです。そんなところで生まれ遊んでいたかと思うと、なぜか心がウキウキしてきます。

このように伊丹の昔のことを知ったり、学んだりすることは素敵なことだとは思いませんか。伊丹を深く知ることは、自分自身を深く知ることにつながっていきます。

このことは、自分が周りの人々とのつながりの中で生かされ育まれていることに気づくきっかけにもなっていくことでしょう。

伊丹市には昔のことについて一緒に調べてくださったり、お話をしていただけるボランティアの方々がたくさんおられます。その方々と一緒に伊丹の歴史に触れてみてください。

今年一年みなさんが、自分について深く知り、伊丹のまちと共に大きく成長されることを心より願っています。

主な行事予定（5月～6月）

5月17日（火）	春季研修旅行	伊丹市役所前8時30分出発
5月31日（火）	屋外研修	八尾地区を訪ねる
6月14日（火）	定例会	中央公民館 9時30分～12時
6月18日（土）	伊丹の自然と文化財	「緑と水と文化財を訪ねて」

<屋外研修>

「有岡城惣構え」と大坂道周辺の文化財を訪ねて

田中 實

さる2月22日午前、金曜日グループ主催で標記の研修を実施しました。今回も前回と同様、昨年7人の新会員が、先輩会員の指導を受けながら分担しました。当日は穏やかな好天にも恵まれ、32人の方々にご参加いただき有難うございました。



正覚寺

山陽さらに梶曲阜等、郷土で活躍した先人に纏わる遺跡や文化財をじかに目にしてその遺徳を偲ぶことでしたが、各寺院のご好意により実現することができました。

荒村寺では本堂にて村重公のお位牌に手を合わすことができ、正覚寺でも本堂でご住職自ら本陣の花丸天井、欄間の彫刻等について懇切丁寧に説明して下さいました。



鬼貫親子墓

伊丹には、先の大戦の戦禍を免れたこともあって、ごく身近な所に貴重な遺跡や文化財が沢山残っており、これらを多くの人々に知ってもらい、次世代へ伝えていくことの大切さを心に刻んだひとときでした。

行程は、次のとおりで、ほぼ予定の時間に終了できました。

(9:40) 有岡城本丸跡→荒村寺→正覚寺→大坂道→有岡公園→外堀→鶴塚→杜若寺→東り→大坂道→惣構え遺構→墨染寺(12:45)

この研修の狙いは、今に残る有岡城惣構えの検証と大坂道周辺に点在する村重、鬼貫、

また、墨染寺では、鬼貫親子墓に間近でお参りすることができました。

他に、東り株式会社様のご協力により、社員の井上様の熱心な解説付で構内にある猪名野笹原、黄金塚などを見学することができました。お世話になった方々に紙面を借りて改めてお礼申し上げます。



黄金塚

Q & A コーナー

Q 各時代の如来や菩薩の口の形はどのように変化したのでしょうか。

A 飛鳥時代のものはアルカイク・スマイル（古拙の微笑）と一般にいられています。少し両端が上がり気味で、かすかな微笑みを浮かべた口元がこの時代の大きな特徴です。奈良時代前期では飛鳥時代の両端の上がり気味の形が、だんだん水平になり、奈良時代後期には、ほぼ水平となって一種近寄りがたい尊厳な感じを与えます。そして、他の時代に比べると最も写実的で、まるで呼吸をしたり言葉を発するようです。唇も最も肉付きよくふくらんでいます。平安時代前期になりますと密教の影響で仏の法力を大衆に吹きつけるかのように少し突き出した口元をしています。鼻の下がやや軽くへの字に結ばれた口元は、張りつめた表情に見えます。さらに、顔面の目・鼻などの位置が大人のそれに対し、口だけは赤ん坊がお乳を吸う口元をしていて時代鑑定のしやすい形です。

平安末には唇の肉付きは薄く、すました感じで冷ややかな印象です。次の鎌倉時代は、奈良後期のものに似ていますが、小づくりでより人間に近い形になっています。

室町以後は、平安末期に似ていますが、より小づくりな形を、そして、江戸時代になりますと顔面が面長になるため口の位置が下がり、鼻の下が長くなっています。

西村公朝 著 「優しい仏像の見方」より

お知らせコーナー

鬼貫の「骸骨の上を粧（よそおう）て花見哉」の句碑が伊丹市鈴原町にある遍照寺の境内に建てられていることは皆さんご承知のところですが、昨年9月末にこの句碑と対面する形で「青梅はその骸骨のみり哉」の石碑が建立されました。

鬼貫の子孫である机月（きげつ）が、鬼貫をしのんで鬼貫の50周忌に詠んだ句です。建立されたのは、やはり鬼貫の子孫で現在伊丹市梅ノ木にお住まいの古結（こけつ）氏です。除幕式には研究者や俳句の愛好者ら約70人が出席されました。古結氏は「約30年前に机月の句を知り、句碑建立は念願だった。鬼貫の子孫としてうれしい」と話しておられたとのこと。なお、字は松原泰道師によるものです。是非おりをみて遍照寺を訪れ、ごらんになられてはいかがでしょうか。



1月25日(火)寒さの厳しい時ではありましたが、土日グループの担当で、今年最初の史跡めぐりを実施しました。御願塚古墳に集合。参加者24名。予定どおり10時に出発し、須佐男神社へ向かいました。寒い時期ですので、寒中耐寒ウオーキングのつもりで家を出ましたが、予想していたほどには寒くもなく、歩くのにはちょうど良い気温でした。

了福寺は、天平年間に僧・行基によって開基されたお寺で、今は土地の人が管理されています。これまでに、何回か行ったことがありますが、内部を拝観することはできませんでした。幸い、この度は福岡さんの計らいで管理者のお一人の坂本さんにお堂を開けていただくことができました。本尊の阿弥陀如来坐像は、寄木造り、漆蒨の皆金色像で気高く、おごそかで、全員仏前に正座して説明を拝聴し、礼拝しました。

了福寺に隣接して南野神社が祀ってあります。こども合わせて詳しく説明して下さいました。社殿の横にある大きなくすの木は、大人の3抱え半もある大木で、神々しく、ご神体としてお祀りしてあります。また、元禄5年(1692)に献灯された燈籠、元文4年(1739)の鳥居などの石造物も印象に残る文化財のひとつでした。

紙面の都合で十分書き盡せませんが、この後、大空寺、健速神社へと足を運び、予定どおり12時半に解散しました。

新入会員の紹介

滝山 昌彦

私は、長年高校教員を勤め、その後美術博物館、図書館勤務を経て、昨春に早期退職しました。伊丹で生まれ育ってきましたが、長年にわたって家に伝えられてきた民俗、歴史関係資料等にあらためて目を向け始めたのは、この数年のことでした。これらを今後もこの地域でどのように守り、活用していくことができるかを、私自身の過ごし様の中で位置づけて考えていきたいと思っています。本会において、多くの文化遺産が人々の生活の中で遺されてきた歴史を学び、それらをボランティア活動に生かすことができればと思っていますので、よろしくご指導のほどお願いいたします。

(遺稿) 田中 美晴

私は、平成9年まで会社勤めをしておりました。定年になって「これからの人生は、自分の好きなように生きることだ」と思いました。歴史が好きで、伊丹地方史学学会に入会し、門脇良光先生に師事しており、マイクロバスで東寺、郡山城址や永源寺に出かけたことが懐かしく思い出されます。文化財ボランティア養成講座があることを聞き、早速受講し、当会に入会させていただきました。市内をガイドすることを今から楽しみにしております。先輩の皆様、よろしくご指導のほどをお願いします。

編集後記

今年も新しい仲間を迎え、火曜会もずい分裾野が広がりました。私達は、この環境の中で何かを学べるというのではなく、新しいことにとり組もうとする努力、何かを自分で掴み取ろうとする努力、即ち積極的に求める心を忘れないように！！

そして、青葉若葉の美しいこの季節、大所帯になった当会にもすがすがしく新しい風が吹き込んで伊丹の宝である文化財の意識をさらに高めていこうではありませんか。